

平成10年度活動報告

白友会副会長

橋本 豊子

新緑の美しい季節となりました。皆さまにはお変わりなくお越しのことと存じます。平素は同窓会活動にご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

早いもので、来年は同窓会総会の時期がめぐって参ります。同窓生の皆様と一堂に会する日を今から楽しみにしております。

さて、平成10年度の役員会・幹事会並びに活動状況についてご報告申し上げます。

尚、現在の白友会会員は延べ一三二五名であります。

〈役員会〉

第1回 平成10年9月22日(月)

14時～15時

議題

- 1. 白友会「会報」3号発刊について

- 2. 平成12年「白友会」総会にむけて

- 3. その他

第2回 平成10年11月6日(金)

11時30分～12時30分

議題

- 1. 白友会「会報」3号発刊について

第3回 平成11年1月20日(水)

14時～14時30分

議題

- 2. 平成12年「白友会」総会にむけて

- 3. その他

〈幹事会〉

第1回 平成10年11月6日(金)

11時～11時30分

議題

- 1. 幹事紹介

- 2. 「白友会」会員名簿の再確認実施方法

- 3. その他

第2回 平成11年1月20日(水)

14時30分～15時

議題

- 1. 学年幹事名簿作成

- 2. 「白友会」会員名簿の再確認実施報告

- 3. その他

〈活動報告〉

- 1. 「白友会」会報2号発行
会報配布 一三三五部

- 2. 母校教育活動への協力
大阪医科大学附属看護専門学
校行事

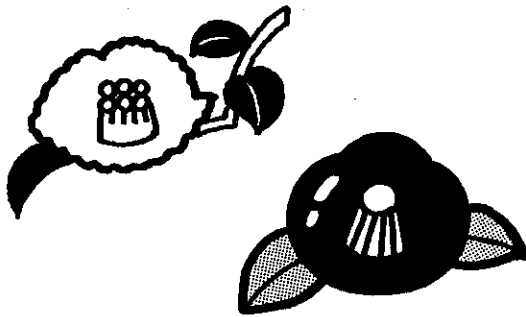
入学式・戴帽式・卒業式時

「祝電」の打電

- 3. 「白友会」会員名簿の再確認

以上

今後の同窓会活動についてのご意見やご提案がありましたらご一報をお待ちしております。



< 収 入 >		
項 目	金 額	備 考
繰越金	9,858,124	
会 費	780,000	新入会員 4名 10年度卒業生74名
合 計	10,638,124	

< 支 出 >		
項 目	金 額	備 考
事業費	326,630	白友会会報発送、切手代
会議費	0	
管理費	0	
予備費	0	
合 計	326,630	
繰越金	10,311,494	

平成11年 3月31日

母校の近況報告

白友会常任幹事

藤川千洋

3年課程の開設以来行ってきた戴帽式も、今年度で第16回を数えました。第一看護学科の一年生は「看護者となるための自覚を新たにし、その責任について考える」を目的とする式典を迎えるにあたり、夏期休暇明けから戴帽式の由来や意義・心構えなどのオリエンテーションを受け、教員との個人面接では看護婦を目指す意志を再確認し、クラスで各々発表し合います。

ナースキャップを廃止したり選択性とする施設が増えている現代にあっても、キャップを戴き初めて看護婦としての外観が整う戴帽式は、学生にとって自己の内面を振り返り自覚を新たにすることを大きな意味もっています。

現在の学生がどのような気持ちで戴帽の日を迎えているのかお知りいただく意味で、今年度戴帽を受けた16回生39名の代表者が式典で述べたあいさつを抜粋してご紹介いたします。

☆戴帽式を迎えるの決意☆
小さい頃の夢である看護婦を目指して本校へ入学し、早いもので約半年が過ぎました。高校までの生活とは異なり、想像以上に忙しい毎日によつと慣

れてきたと同時に、看護婦になる道のりの大変さを実感しています。授業やテストを受け、技術演習をする中で何度も、看護婦になれるのだろうか、という不安に襲われましたが、その都度入学した当時の気持ちや、初めて白衣を着た時の気持ちを思い出し、頑張ってきました。白衣を着ての技術

聖灯拝受



演習では、憧れでもある看護婦さんに少しだけでも近づけたような気がして、感動し、白衣を脱ぐことがとても惜しい気持ちでした。6月には実際の看護の現場での一日実習を体験しました。患者さんから話しかけていただき、やつと返事をするだけで上手く接することができませんでした。しかし、患者さんは私たち学生に対しても、「看護婦さん」と呼んでくださって少し困惑しましたが、とても嬉しかったことと同時に、学生といえどもその責任を強く感じました。

戴帽式を迎えるまでは、不安と期待でいっぱいでしたが、本日戴帽式を迎え、看護婦の象徴であるナースキャップを戴帽していただき、看護婦の道に一步近づけたように思え、嬉しさでいっぱいです。けれども、これまでの自分を振り返ってみると、まだ今の自分には少しこのナースキャップが重いような気がします。

これからはこの重みを自覚して責任のある行動がとれるよう、心構えを新たに自分の描く看護婦像をしっかりと持って勉学に励んでいこうと思っております。そして将来は、マザーテレサの言葉である「看護婦を選んだのは仕事としてではなく、生き方として選んだ」といえる自分を目指しております。

平成10年10月12日

第一看護学科16回生

実習病院の歴史紹介

— 新生児室沐浴風景 —

昭和30年代前半の新生児室での沐浴の様子です。

当時、産科病棟35床、新生児室20床、未熟児室4床の規模で、分娩件数は年間500〜900件でした。体重1100〜1600gの未熟児も収容することができ保育状況も良好でした。

看護婦のユニフォームは、戦時中から戦後にかけて活動的なスタイルのものに変わっています。



病院の近況報告

― 卒後教育について ―

大阪医科大学附属病院

看護部教育担当

西山裕子

看護部は、看護婦から補助婦を含めて、約750名の職員を持つ大所帯である。看護の質を維持、向上できることを目的として、職員一人一人に満足してもらような教育を行うのは至難の技といえる。

このために、看護部教育委員会を設置し、毎月委員会を開催して、研修を企画し、実施評価して、その後の教育



リーダー宿泊研究

体育交流会



に繋いでいる。教育委員は11名で、主任・臨床指導者・スタッフナースで構成している。

各部署には教育担当者が1名ずつおり、各々の部署の教育が効果的に進められるように、責任者と協力し勉強会の支援をしたり、研修参加者の支援をしたりしている。また、各月毎に担当者会議を持ち、他の部署の担当者や教育委員と情報交換したり、検討し、教育レベルの向上に努めている。

全体の研修では「特別講義」として、「接遇」や、「対人関係」に関する講義を始めとして、経験年数や役割別の「対象別研修」と、個々が自分の興味や関

心によって選ぶことができる「選択別研修」を企画している。全ての研修を換算すると、年間約50回の研修を行っていることとなる。

「対象別研修」として、例えば「リーダー研修」がある。この研修は各病棟から1〜2名のリーダー的役割を担う人に1年間を通して参加してもらい、自己の問題解決能力を開発できるようにしている。年度初めにグループ討議を行い、各々が1年間を通して解決していきたいテーマを決定し、具体的な解決策を計画する。その後半年間解決に取り組み、評価して、リーダーとしての自己の課題を明確にする。それを持って、秋に一泊二日の宿泊研修を行う。宿泊研修には、看護部長を始めとして教育委員も全員参加する。そして、専門講師を招いて、講義を聴き、個々にアドバイスを受ける。翌日の午後には振り返りの会を持つ。自己の振り返りができ、悩んでいたことの方角性を掴むことができたこと、感動したこと、殆どの参加者は発表し、看護部長からも励ましやアドバイスを受ける。その後、各々の部署の責任者に手紙を書き、自分の思いやその後の決意を伝えていく。この学びを基に、その後半年間再度解決に取り組み、年度末に再度グループ討議をして、評価をし1年間が終わる。

新卒者に対しては、医療の高度化や多様化、医療を受ける人達の要求の高

まりから、看護学校の教育内容も再三に亘って改正されている。このことから卒後の継続教育が重視されており、3年間は段階的に確実な成長を図ることができるよう計画している。

補助婦に関しても、定期的に研修を持ち、講義を受けたり、グループに分かれて意見を交換して、日々の業務の見直しを行い、改善に繋いでもらっている。

「選択別研修」では本年度は、「看護プロフェッショナルシリーズ」、「救急看護シリーズ」を企画し、病棟薬剤師や人工肛門の専門看護婦の話を聞いたり、専門的知識や見解を得る機会を持っている。また、年間を通して各部署で看護研究に取り組み、原稿を作成する。それを研究委員が査読し選考した後、看護研究発表会を行っている。このことで、日々行っている看護を追究したり、情報を共有する機会としている。年々看護研究のレベルは高まり充実してきた。社会の変化から、現場も日々変化し、看護も量ではなく、質を求められる時代となった。特に、高度な医療の提供をその役割とされる大学病院は、そのことが強く求められている。一人一人の患者さんを大切に、満足してもらえよう看護が提供できるように、看護職員の質の向上に繋がれる教育を強化していきたいと日々努力している。

恩師からの

メッセージ

「医の心とは」

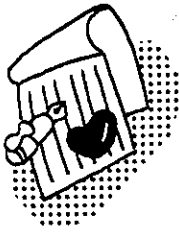
大阪医科大学功勞教授
大阪医科大学附屬看護専門学校
非常勤講師(人間工学担当)

富永通裕

「聴覚だけは最後まで生きています。たくさん声をかけてあげてくださいね」と眼のくるりとした可愛い若い看護婦が云った。これは柳田国男氏の「犠牲」の中の一節である。植物状態になった幸薄い次男の短い人生を思つて、暗然としていた父親にどんなにかやさしく、安らぎを与えたとだろう。友人も恋人もない、あるいは作れない不器用さからますます孤独感と疎外感の蟻地獄に落ち込んだ結果、折角、同じ屋根の下に居ながら、愛する次男が悩みの末、なすことなく縊死させてしまった父親としての悔恨、無念、悲哀に打ちひしがれている心に、一瞬ではあるが忘れ難い安らぎと感動を与えたのである。

そもそも医学とは何であるか。文明と文化とのちがいは、両者はほぼ同じ意味で使われているが、西洋では物質生活に関するものを文明といい、精神生活に関するものを文化と分けている。

本来医学 (medicine) とは医学文明と医療文化を包括したもので、前者は医学 (medical science)、後者は医療サービス (medical service) と云われている。大切なのは医学文明が発達するに伴つて医療文化が発達するとは限らないことである。むしろ物質文明が栄えると逆に精神文化が衰微することは古今東西を問わずにみられる。遺伝子診断や治療などの先端技術は日進月歩であるが、そこに治療を受ける人のことを忘れ勝ちになる。医学文明は進歩しているが医療文化は置き去りされる感がある。大病院などでは、めずらしい「病氣」そのものに興味を示すが「病人」に対しては思いやりが乏しいのは困つたものである。絨毯爆撃のように多種多様の検査をして、その結果に異常を認めないからといって、現に苦しんでいる患者に「あなたは病人でない」と冷やかに宣告するようなのは、臨床に携わる者として失格である。冒頭の若い看護婦のさりげない言葉にみられるように、常に温かい、やさしい気持ちで患者ならびに家族に接してきたいものである。医の心とはまさにそれである。



思い出の窓

思い出の記

新制二回生 竹内 ツヤ子

昭和四年を起源に、三〇〇人以上の卒業生を送り出した母校、改めて尊敬の念と、なつかしさを深くします。

「看護とは如何にあるべきか」と問いつづけられた三好看護部長には、看護のみならず、人格形成の上でも厳しくご指導を受け、私達は、「何をなすべきか」を学びましたし、何時も看護生活の足元を照らす光でした。

私達は新制二回生でした。第2号会報で、加藤さんが書いておられました。1回生の皆さんは大へん活発で新しい事にもとり組まれ改善され、よく指導をして下さつたので、レールの上を走つていけば良かった私達は、どちらかというと、少しおとなしくまとまつたクラスであつたように思います。

もつとも、私のクラスにも活動的な実行派が何人かいました。授業中、講師の似顔絵ばかり書いては、叱られていた私のような不良学生が、全体の足を引つ張つて一層の活躍をばんでいたのかも知れません。

講義で思い出しますのは、小児科学の成松先生です。講義の後半に、捕物帖の話の連続もので話して下さい、軽妙な語り口で皆を引きつけましたので、

楽しみでかえつてよく勉強した様に思えます。現在のカリキュラムでは考えられない事ですが、良い時代でした。

また、思い出の人と云いますと、病院のメッセンジャー、インフォメーション、玄関の整備などされていた棚次さん、お顔立ちがどこか仁王様に似ておられたおつかないこの方にも、やたら叱られ、箒を持つて追いかけられた事もありました。ある日この方が、週刊誌にのっている「桑野みゆき」の写真をさし出して、「これあなたに似てる」と云つたのです。私は、女優に似ているなんて後にも先にもこの時ばかり。この日から私は、棚次さんが世界一好きになりました。

また厨房で働いていた、小肥りで赤ら顔の大きなお腹をした、どこか西洋のお母さんと云つたタイプの安藤さん、空腹の私達にパンを買ってくれたやさしい荒木さん、洗濯物が乾かず困つていた時、白衣や靴をポイラーの熱で乾かしてくれたポイラーマンの方々、側面からも多くの人々に支えられた日々でした。

あの頃は、学校の近郊には、モネやコローの絵のような風景がみられたのですが、今は白い建物が隣接して、偲ぶべくもありません。でもあの松林を見ますと安らぎます。

医学の発展はめざましく、死をも科学管理できる時代となり、世の中は不況の波が押し寄せ、私の脳ではとても

整理しきれない問題が起っています。が、世界がどう変わるうとも、ナイチンゲールの説いた「看護とは、患者の生命力の消耗を最小限にするよう、すべてをととのえる事である」は、永遠に変わらない看護の目的です。

「明日は、今日より良い看護を」を目標に歩んできた道ですが、命、尽きるその日まで「看護婦でありたい」と願う、その事が、自ら選択した職業に対する責任であろうと考える今日この頃です。

第2号会報での歴史紹介「忠考」の軸のかかった教室、髪をすっぽり包んだキャップ、非活動的とも思えるロング丈の白衣姿が、かえって神聖さを感じ背筋が伸びます。今後の歴史紹介が楽しみです。以上

「卒業生としての誇りと自信が私を支えてくれた」

新制三回生 八木光子

私が高日迄、生き続けられた事は看護婦免許証のお蔭です。実に多方面で活用して来ました。旅行救護、保健所業務、老人福祉行政、訪問看護、病院勤務等々々良い経験を得ました。赤ちゃん検診、三才児心の検診届け出の結核

患者経過管理及び訪問断酒会への呼びかけと、病院では経験できないことが数多く実践できました。

予防医学と地域重視の保健教育を自ら取り組んで参りました。いち時期は教育に関心をもち、(小・中・高)学校の育友会、地域子ども会、母親クラブ、婦人部等の役員を受けながら、精神医学、カウンセリング、日本レクレション協会等の学習会に参加して来ました。

現在は、民生委員、町会長、行政協力員、神社氏子総代等をしながら地域活動をしております。単位町会で、年間8回シリーズで健康教室、介護教室、家庭看護教室を実施し、年1回の市長こん談会は恒例となりました。隣人愛、年寄りが年寄りを見る時代、家族力の低下は地域福祉を見直す1つの課題です。年令と共に変化する私の進路にも専門分野の役割で役に立ちたいと願っております。今も日本看護協会看護連盟、日本レクレション協会、県精神保健協会、全日本民俗舞踊連盟の会員として研修会には参加しております。私

が一番苦しかった時、夫や義父は大阪医大病院で亡くなり、解剖に供した時は私もその場に立合いました。この時期にはクラスの人、先輩、先生方に助けられました。相談にのって下さったのは総婦長でした。今でも私のふる里は高槻であり母校でもあります。青春の日々を過ぎた寮生活も今はただなつかしく愛泉寮の点呼の声高らかに思いつ

出一ぱいの学生生活でした。最後は又ふる里母校に帰るつもりで数年前に献体を済ませました。その時を最後の花道にしたくて生前委託登録者証明証を常に携帯しております。こんな卒業生がいる事を覚えていて下さい。

泣き笑い 白衣にたくし六十坂 道の深さ まだ見えず

定例同窓会

二年課程全日制六回生

今 井真弓 (旧姓合内)

六回生全員の国家試験合格祝いに、教務主任勢川先生(現看護部長)と堀畑先生と城の崎温泉、天の橋立に一泊旅行をし希望に燃えて看護婦のスタートを切ってから不定期に集まっていたのが、昭和五年に高槻かま風呂に一泊してより毎年七月の第一土、日曜日を同窓会の日と決めた担当幹事の居住地を同窓会地とし小旅行を楽しんできました。六回生十三名の内一名は、飛行機事故で死去、一名は不参加、残り十一名が全員参加(時には事情に依り一人二人欠席の事も有)同窓生の中にとても旅行好きでめんどろ見の良い人がいて何かと世話をやいてもらい毎年継続出来ていると喜んでいきます。いつもそれぞれに楽しいのですが印象にのこっ

ているのは、九州別府では幹事の御主人がマイクロバスを運転し妹さんがガイド(元バスガイド)で土砂降りの中をめぐった事。高野山では亡くなった友の供養を皆で行えた事。昨年は二泊三日で海外旅行に行きました。東京組大阪組に分かれ台北空港に集合し、元教師のガイドさんに案内してもらい一日目は蒋介石の偉業を記念して建てられた中正記念堂、孔子廟をめぐり夜はオカマシヨウを見学、二日目は革命や抗日戦争などで亡くなった兵士の霊が



祭られている忠烈祠で衛兵の交代儀式を見、国立故宮博物院では歴史的価値の高い国宝級の美術品に感銘しました。三日目はもうおみやげを買うのに夢中でした。今年は鎌倉、江ノ島に行きました。来年は明石大橋を渡り淡路島への予定です。こんなに永く同窓会を行っているのに私達には会の名前がありません。次回に名前をつけることを提案しようと思っています。年一回七月に行っているので「七夕会」などどうかしらと。

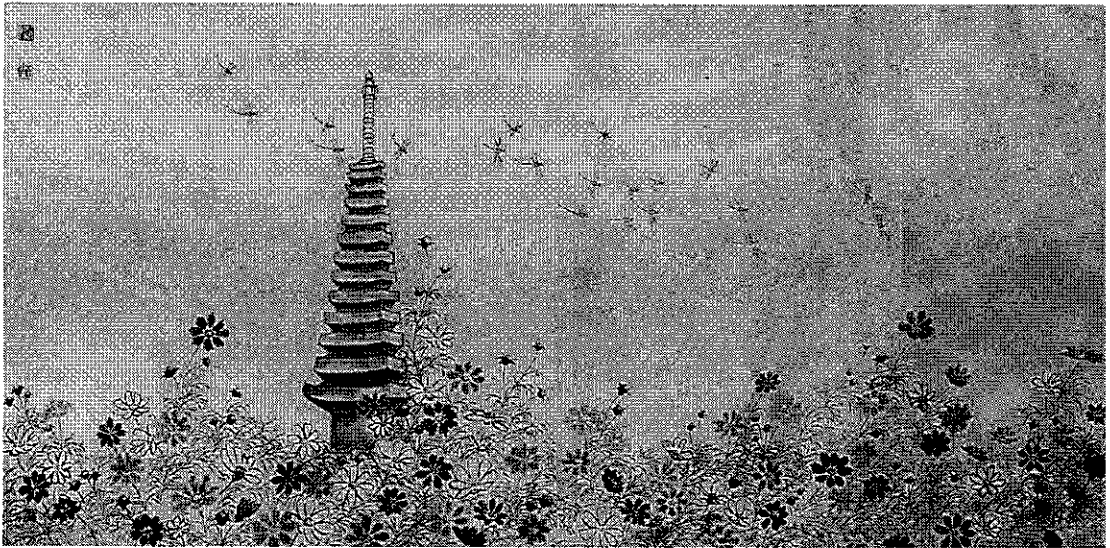
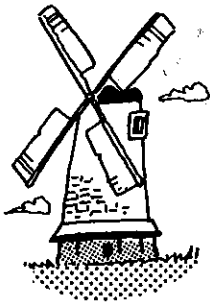
二年課程全日制六回生

平松道子

(旧姓黒野)

白友会の発足、誠におめでとうございます。遅ればせながら、心より感謝とお礼を申し上げます。この年、オランダで暮らしていた私のもとに父より白友会誌が送られて来ました。ぼつぼつ日本が恋しくなっていた頃でしたので、ことさら感激しました。そこはアムステルダムから列車で2時間程、北へ行ったグローニンゲンと云う静かな大学町です。湖と運河に囲まれた箱庭のような可愛い町で人々は実に堅実に慎しく暮らしています。馬鈴薯とチーズとワインが豊富で、クロツカスとチュールップが永い冬から春を知らせてくれます。若者は雨の日も雪の日も自転車

に乗っておしゃべりしながら出勤します。彼等は天才まで頑張ろう、天才を過ぎたらバラ色の人生だ、とでも話しているのでしょうか(高額所得者の収入の6%が税金)。若者が出かけた後の昼間の住宅街では老人が静かに優雅に暮らしています。お洒落してスーツを着て散歩したり、公園の日だまりで読書したり、湖水のほとりでコーヒーを楽しんだり、ゆるやかな時間が流れます。私も仲間入りがしたくて絵画教室に参加しました。主婦と老人と三名程のクラスでしたが2時間で作品を完成させ、あと1時間はコーヒーを飲みながらミイティング(誉め上手の先生を囲んでおしゃべり)です。又、どの家にも大きな窓があつて、水辺と水鳥と柳と、そして枯葉一枚でも自然を大切に、決しておごることなく、自分流に人生を楽しんでいるなり、と思えました。日本人は(私は)少し、おごっているのかも、ふと、そんな不安を感じたものでした。



第15回国際水墨画展 新人賞 秋の風 三好麗佳(白友会顧問 三好トラキ)

西からの秋の風は可憐なコスモスの庭を吹き抜ける。風をさえぎるように赤トンボの群れが青き空に流れて、鮮やかな世界がそこにひろがっている。

水墨画ゆえに美しい景色は悠久の時を越えて、見る者の心に幽玄な世界をかもし出してくれる。墨には無限な色の広がり誘い出してくれる不思議な力がある。

新入会員紹介

3回生 波多由子(大川内) 11回生 百々道子(山崎)
 新入会員 10回生 増元恵美子(田中) 6回生 西山加代子(巽)
 10回生 園まつ子(森田) 7回生 清藤房子(山崎)

(平成10年度卒業生)、第一看護学科13回生40名

子美子 美穂子 鶴子 代子 美愛美
 貴貴聡 真志 圭 千真 幸恵 真 寿 里
 村屋 木田 川木 村内 岡田 邊田
 野峰 番船 前松 松野 三山 吉吉 渡和
 ミ衣子 美子 世佳子 希子 里子
 ル裕 真晴 日洋 瑠佳 亜友 千陽
 村本 田水石 塚山 西村 村重
 木坂 柴清 白谷 谷土 中中 中成 西
 子矢美 華子 香子 幸加子 加子 紀美
 郁真 裕美 留美 由陽 美梨 順美 扶美 裕
 山野 井島 杉西 口島 名村 地場 村
 青綾 今牛 大大 岡河 川河 菊木 木

(平成10年度卒業生) 第二看護学科30回生34名

晶恵子 美子 香子 希幸子 ひと
 千津美 静淳美 公ひ
 中増川 島西 口南 瀬本 山岡
 田徳 中中 中濱 日廣 増丸 山
 子幸子 愛晴子 美紀佳子 子
 裕真愛 千美 知由 由尚 麻衣
 嶋上口 玉林 藤田 浦田 田橋
 辛川 河児 小斎 城杉 杉高 高
 織子々 幸里 加子 忍 景子 子
 沙奈奈 緒緒 沙美 直か お津 津葉
 部部 倉口 垣石 蘭田 野崎 谷倉
 阿安 板井 上大大 大尾 納金

計報 特別会員 岡田キヨコ(池本) 旧制12回生 大植千代子(木村)

事務局からのお知らせ

▲総会について▼

第2回白友会総会は、平成12年6月3日(土)の予定です。

▲クラス会を開催▼

さされましたら、どうか事務局へもご一報下さい。懐かしい思い出の一コマを、クラス会だよりで紹介したいと思えます。

▲会報・名簿について▼

情報社会の現代を反映してか、最近名簿などを悪用される場合があります。会員の皆様には保管に充分ご注意頂きますようお願いいたします。

▲新入会員の募集▼

白友会の会員数は、毎年新入会員を迎え増えています。しかし、未だ白友会への入会方法を御存知でない方もあるように思われます。

左記連絡先をご利用の上、入会をお待ちしております。

白友会事務局

☎〇七二六―八四―〇八七一



編集後記

早いもので、本会報も三度目の発行を見ることができました。会員の皆様からは、会報に対して「昔を思い出して懐かしい」「同窓会ができてよかった」「次号の発行を楽しみにしている」等々のご感想を数多く頂いております。また、会員数は新卒業生に加えて新たな入会申し込みで急増しており、来年の総会での再会が、今から楽しみです。役員会としてそろそろ準備にかかるころですが、思わず力が入ります。

第三号は自主的に原稿をお寄せくださる方もあり、前号より紙数を増やしたの発刊となりました。シリーズものとして掲載しております内容も好評で係としましても大変うれしくまた、感謝いたしております。

本会報発刊の趣旨に沿って進めて参りましたが、会員の皆様のご協力ご指導を重ねてお願いするとともに、ご意見等お待ちいたしております。

最後に、ご執筆頂きました先生始め皆様ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

会報担当

井原 美保子
 森山 幸子
 山本 利枝